

ウオノメとイボ

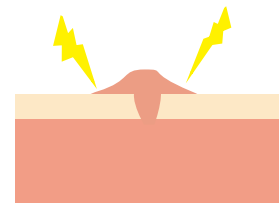
皮膚科

皆

さんは1日に1回自分の足の裏を見ることがありますか？毎日体を支えている足ですが、何かトラブルが起きない限り注意を向けてもらえない存在です。

足の皮膚疾患として多いのは、タコ・ウオノメ・イボ・まき爪・水虫などで、なかでも足底の皮膚が硬くなるものとしてタコ・ウオノメ・イボが知られていますが、これらはきちんと区別されずに自己流の治療がされていることが多いようです。ときに誤った治療がされていることも多く見かけるので、基本的な見分け方をお話ししましょう。

一般に、タコとウオノメは靴などで足が圧迫されるために起こるもので、あたるところの角質が増殖し硬さを増します。特にウオノメは皮膚の内部に角化がのびるため、とげが刺さったような状態になり圧迫により痛みが強くなります。痛みは角質を柔らかくして削ると楽になりますから市販されているスピール膏などを用いるとよいでしょう。



ウオノメ

それに対し、イボはある種のウイルスにより角質が増殖するもので、圧迫とは関係なく、足以外にもあらゆる場所に増えることがあります。見た目にも様々な形をとります。不整形に周囲を拡大したり数が増えたりする時は、まず間違いありません。ただし、区別が難しいものもありますから、気になったら皮膚科医の診断を受けて下さい。イボの治療は家庭でできる確実な方法がなく、放置していると増えることもありますので通院治療が必要です。最もよく行われるのは凍結療法で、手軽にできますので、イボらしきものを見つけたら早めに受診して下さい。

まずは、足の裏のチェックをしてみてください。足の裏、ゆびの間を丁寧に石鹸で洗って下さい。それだけで足の異常に早く気付くばかりでなく、1日の疲れも癒されるでしょう。

梶山 理嘉



皮膚科・小児科
多摩ガーデンクリニック
東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

予約・お問い合わせ
042-357-3671

※皮膚科と小児科では診療時間及び受付時間が異なります。詳しくは受付・電話にてご確認ください。